

一 般 質 問 通 告 表

令和7年3月定例会議

質問順	件 名	要 旨	答弁者	議 員 名
1	1. 体育館施設へ冷房設備の設置を考えては	<p>近年の地球温暖化によるものと思われる夏の暑さは、異常ともいえるところである。本町には、多数の体育館施設（総合体育館・各小中学校体育館・その他体育施設）がある。最近では、夏場の高温多湿な体育館での運動は、熱中症の危険性が伴うことから、体育の授業や各種大会の運営に支障をきたしている状況が多くなってきていると聞く。そこで以下の点について伺う。</p> <p>1) 体育館施設への冷房設備設置について、これまでにどのような調査、または検討が行われてきたのか。</p> <p>2) 現在の各施設への設置計画や進捗状況は。</p> <p>3) 冷房設備を設置する場合、その費用とその後の運用費用は。</p>	町 長	馬場 良勝
	2. 高齢化が進む各地区の存続について	<p>我が国における少子高齢化は急速に進み、本町でもその対策が大きな課題となっている。吉田・鶴巣・落合の各地区の高齢化率は既に40%を超えており、20年、30年後には、行政区の存続すら危うい状況ではないかと考える。そこで以下の点について伺う。</p> <p>1) 各地区の少子高齢化による影響をどのように捉えているか。</p> <p>2) 今後の地域コミュニティの維持は、大和町にとっても重要な課題であると思うが、町としてどのような施策が必要と考えるか。</p>	町 長	
	3. 大和町土地開発基金条例の運用について	<p>令和6年9月定例会議において、「大和町土地開発基金条例」が可決成立した。この条例は大和町第五次総合計画に基づき、公共の利益のために運用されるべきと考える。そこで以下の点について伺う。</p> <p>1) 本条例の第1条には、「公用もしくは公共用に供する土地又は公共の利益のために取得する必要がある土地をあらかじめ取得～」とあるが、町長及び執行部が、第五次総合計画等に計画がない場合、または、町民からの要望等がない場合でも、第1条の設置目的にある「公共の利益に資する」に合致すると判断すれば、該当する土地を取得できる解釈で良いのか。</p>	町 長	

質問順	件 名	要 旨	答弁者	議 員 名
2	1. 空家対策について	<p>「空家等対策協議会条例」が令和4年6月定例会議において議決され、同条例に基づき空家等対策計画（概要版）が策定されている。その後の対応など、以下について問う。</p> <p>1) 令和3年5月～9月まで実施された実態把握調査では、空家・空き店舗バンクを利用希望しない旨の回答が多いとあったが、どのような理由が考えられるか。</p> <p>2) 特定空家等は法に基づくため、慎重に対応しなければならないと思うが、町内における該当する物件について、庁内連携会議で検討し、同協議会で対策が協議されているのか。</p> <p>3) 固定資産税等の課税標準額の特例があるため、家屋解体しない、税額が上がるので平地にはしないなどの事例が多いのではないかと心配されている。見直す考えはないか。</p>	町 長	佐々木久夫
	2. 郷土芸能の伝承とは	<p>町内各地域には、代々伝承されている民俗芸能として、辛うじて受け継がれている「神楽」がある。これらは保存会により町のイベントや地区の芸能祭等で披露されているが、近年は継承者が少なくなり、伝統の存続が難しくなるのではないかと心配されている。</p> <p>町は郷土芸能の伝承をどのように考えているのか、以下について問う。</p> <p>1) 現在、神楽をはじめとするお祭りなどの文化的な活動されている団体は、町内にどれくらいあるのか。それら団体の代表者及び連絡先は把握しているのか。</p> <p>2) 過去に郷土芸能に関する調査をしたことはあるのか。</p> <p>3) 伝承及び継承などに関する助成金等の相談をされたことはあったか。特に金取代々神楽は、大和町指定無形民俗文化財として、平成7年に指定を受け現在も活動しているが、地域では伝承について色々考えていると思うが町の考えは。</p>	町 長	

質問順	件 名	要 旨	答弁者	議 員 名
3	1. 従来地区の子どもを増やす政策を	<p>本町の出生数は、2017年が291人、2018年は少し減少し266人、この後も減少が続き、2021年には186人の状況となっている。</p> <p>また、本町HPの2025年1月、住民基本台帳世帯・人口一覧を見ても従来地区（宮床、吉田、鶴巣、落合）は減少し続けている。そこで下記の3点を伺う。</p> <p>1) 国や県、そして本町も子育て支援政策を進めてきているが、出生数減少の歯止めはかかっているか。</p> <p>2) 国は「こども未来戦略」において、総額3.6兆円規模に及ぶ「こども・子育て支援加速化プラン」をとりまとめ、2024年度から児童手当の抜本的拡充ほか、妊婦のための支援給付など5つの目玉政策を行っている。しかしながら、この国や県の動向を注視していきつつ、本町として独自に行うことはないだろうか。</p> <p>例えば、新たな移住者に限定した子育て世帯等移住・定住応援事業や三世代同居応援事業のみではなく、同居する子が結婚し同居、または近居したくなる補助事業を行い、親から独立する子が地域から出ていかない政策を行えないか。</p> <p>3) 三世代同居・近居を増やすための、農業振興白地地域の農家住宅増加政策は。</p>	町 長	渡辺 良雄
	2. 地域防犯のDX化を	<p>安全安心で住みやすいまちづくりのためには、地域ぐるみで防犯に取り組む必要があると思われる。しかしながら、地域によっては少子高齢化による人手不足などで十分な防犯対策を講ずることは難しいともいわれる。近年は過疎化した地域でも闇バイトなど凶悪な犯罪が発生している状況で、町民の不安も大きくなり、センサー付防犯灯設置や自宅監視カメラを設置する住宅もある。また、テクノロジーの進化により、町全体の防犯対策を講ずる自治体も増加してきている。</p> <p>本町としても防犯カメラは設置してきているが、更なるDX推進により町全体及び近隣自治体と連携した防犯政策を推進してはどうか。</p>	町 長	

質問順	件名	要旨	答弁者	議員名
4	1. 子育て支援住宅事業について	<p>子育て支援住宅事業は、人口減少地域の地域コミュニティの維持、宮床・吉田・鶴巣・落合地区の児童数減少対策、定住人口を確保するための事業である。令和2年度から入居が始まったが、定住促進に関する事業効果は何も見えていない。</p> <p>また、子育て支援住宅及び定住促進事業は、今後も引き続き必要な事業であるとする。次の点について町長の所見を伺う。</p> <p>1) 子育て支援住宅の居住期間終了後における定住に向けた支援策は。</p> <p>2) 定住を目的とした新たな子育て支援住宅を設置する考えは。</p>	町長	堀籠日出子
	2. 町の胃がん検診に胃内視鏡検診の導入について	<p>町民の健康増進を目的として毎年各種検診が実施されている。現在の胃がん検診はバリウム検診のみとなっており、胃内視鏡検診を望む声がある。</p> <p>また、厚労省では市町村の検診に胃内視鏡検診が導入されており、以前の一般質問の答弁では、胃内視鏡検診の実施に向けて、黒川医師会、関係機関と調整に取り組むとの答弁であった。下記について町長の考えを伺う。</p> <p>1) 黒川医師会との協議経過及びその内容は。</p> <p>2) 胃内視鏡検診の実施に向けた考えは。</p>	町長	
5	1. 高等学校等の通学費助成で進路を増やせ	<p>遠距離通学費助成金交付事業にならい、住居から高等学校等までの距離に応じ、通学費を助成できないか。公共交通機関に頼れない保護者の経済的負担を軽減することで、児童生徒に進学先の選択肢が増え、向学心を育むことも期待できるのでは。</p>	町長	児玉金兵衛
	2. 武道館の早急な修復を	<p>にぎわい創出の砦である大和町武道館は、築96年を経て、なお現役であるが、建築物の意匠の随所に深刻な破損や劣化が見られる。早急に修復を実施すべきである。</p> <p>令和5年12月定例会議の一般質問において、国登録有形文化財を目指す方向性を示したが、現在の考えは。</p>	町長	

質問順	件名	要旨	答弁者	議員名
6	1. 命を守る地域の安全対策を	<p>SNSを通じて実行役を募り、詐欺や強盗などの犯罪を繰り返す「匿名・流動型犯罪グループ(トクリュウ)」対策が必要と考える。そこで以下の点について伺う。</p> <p>1) 個人宅で実施する防犯対策費用の一部を助成できないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓ガラス飛散防止のためのフィルム貼り ・人感センサーライトの設置 ・防犯カメラの設置 <p>2) SNSを通じて闇バイトに手を染める若者が出ないように呼び掛ける広告の発信を行ってはどうか。</p>	町長	犬飼 克子
	2. 防災教育でマイタイムラインを学ぶ	<p>近年日本各地で起きている自然災害や被害の様子などから、学校現場の防災教育の重要性が注目されている。児童一人ひとりが状況に応じて、自分の命は自分で守ることができる自助の意識、状況から自分のことを考え行動できる共助の意識を育てるといった主体性を育む防災教育の充実が重要視されている。そこで以下の点について伺う。</p> <p>1) 災害時の避難行動計画「マイタイムライン」の作り方を学ぶ機会を創出しては。</p> <p>2) 町のホームページから「マイタイムライン」をダウンロード出来るようにしては。</p>	町長	
	3. 「蛇石せせらぎ公園」の更なる活用を	<p>現在、「蛇石せせらぎ公園」の駐車場整備と横を流れる川の水質検査により、安心して遊ぶことができる対策を講じている。しかしながら、今後、駐車場整備完了と共に訪れる方々が増えることは必然的である。遊べる場所、範囲を拡張していかなければ、人で溢れ返ってしまい危険性が増すのではないかと考えられる。</p> <p>訪れていただいた方々が、安全で、安心して遊べる公園にすることが、同公園を管理する行政としての責任であり、駐車場整備と共に「せせらぎ公園」の横を流れる川などを含め、遊び場を拡張するなどの整備計画が必要と考えるが所見を伺う。</p>	町長	

質問順	件 名	要 旨	答弁者	議 員 名
7	1. 児童・生徒の学力向上について	<p>第5次総合計画に「確かな学力と豊かな心の育成」とある。特に児童・生徒の学力向上への取り組みは、未来の大和町のために重要なことだと考える。宮城県の第2期教育振興基本計画でも児童・生徒の自立型教育の推進を謳っている。</p> <p>本町が目指す教育ビジョン、学力向上への取り組みについて、教育長の考えを伺う。</p> <p>1) 教育長が掲げる教育目標は何か。</p> <p>2) 本町独自の英語教育やイエナプラン教育の導入についてどのように考えるか。</p> <p>3) 大和町の教育のあり方を検討する組織を立ち上げる考えはあるか。</p>	教育長	平渡 亮
	2. 子育て世帯等移住・定住応援事業について	<p>本町では、移住定住支援事業を平成28年から実施してきた。令和7年度から奨学金返還支援事業を実施するため、移住・定住施策について見直しの時期に来ていると考える。</p> <p>現在、この事業の補助対象者は、町外からの転入、転居世帯対象である。子育て世代への移住施策として、手厚く充実しているものである。</p> <p>しかし、定住や地域コミュニティの維持の観点からみると、対象者を広げる必要があると考える。特に宮床地区・吉田地区・鶴巣地区・落合地区では、子どもや若い世代の方が少ない現状にある。</p> <p>定住施策であれば、従来からその地区に暮らし、子どもを育てる世帯も対象者にすべきと考えるが町長の考えを伺う。</p>	町 長	
	3. チャレンジショップ制度の導入について	<p>近年、全国の自治体において、地域経済の活性化と創業支援を目的に「チャレンジショップ制度」を導入する事例が増えている。特に飲食業などの起業において、キッチンカーやレンタルキッチンを活用することで低コストかつ柔軟な形での創業支援が可能となる。</p> <p>そこで本町の創業支援施策の現状を踏まえ、「チャレンジショップ制度」などの新たな施策が必要であると考え。以下、町長の考えを伺う。</p> <p>1) 地域でがんばる事業者応援補助金の利用はどのような状況にあるか。</p> <p>2) 「チャレンジショップ制度」を導入に関してどのように考えるか。</p>	町 長	

質問順	件名	要旨	答弁者	議員名
8	1. セツ森周辺の観光資源の活用は	<p>本町のシンボルであるセツ森の周辺には多くの施設が点在し、季節を通して多くの方々が訪れている。自然豊かな景観や多様な活動の場として、地域住民だけでなく観光客にも親しまれている場所である。</p> <p>しかしながら、近年、観光資源の活用が進む一方で、地域経済への還元や持続可能な観光振興についての課題も出て来ていると感じる。</p> <p>セツ森周辺の活性化をさらに進めるため、以下について考えを伺う。</p> <p>1) 各施設の利用状況を踏まえた、施設のあり方を再検討する考えは。</p> <p>2) 多目的なイベントなどが出来る施設の整備を考えては。</p>	町長	本田 昭彦
	2. 洞堀川沿いの安全確保は	<p>全国各地では、近年、毎年のように水害が発生し、甚大な被害をもたらしている。地域住民の安全を確保するために重要な施策として、河川改修工事が行われている。</p> <p>現在、洞堀川においても下流部より改修工事が県によって進められている。護岸整備や河道掘削に伴って流れは良くなるが、護岸は急勾配になり、危険も増すと考えられる。更に吉岡西部土地区画整理事業の進捗に伴い、洞堀川に流入する水量は増えると想定される。このことから、川沿いの安全確保が必要と考えるが、以下のことについて考えを伺う。</p> <p>1) 改修工事の現状と完了見通しは把握しているか。</p> <p>2) 街灯の設置や転落防止対策の考えは。</p>	町長	
9	1. 小規模特認校の落合小学校について	<p>町内の人口減少地区にある小学校の人的な教育環境を維持するため、令和2年5月からの様々な会議や説明を経て導入された小規模特認校制度により、落合小学校が対象校に指定されてから5年目を迎えようとしているが、以下について町の考えを伺う。</p> <p>1) 制度導入以降、落合小学校のこれまでの振り返りと問題点や課題は。</p> <p>2) 「小規模校ならではのきめ細やかな指導により、心身の健やかな成長を図り、豊かな人間性を培う、特色ある教育活動」をうたっているが、その内容と成果は。</p> <p>3) 特認校ならではの魅力ある教育が必要と考えるが、例えば英語教育に力を入れるなど特化した教育を実施するモデル校にしてはどうか。そのことで就学希望者が増え、人的な教育環境を維持できると期待するが、今後どのように考えるか。</p>	教育長	櫻井 勝

質問順	件名	要旨	答弁者	議員名
10	1. 総合計画について	<p>令和4年3月に策定された「大和町第五次総合計画」は、目標年度を令和13年とし、町の最上位計画として現在進められている。しかし、「昨今の社会情勢や、工場進出に関連する需要」を理由に前期計画を1年前倒しして後期計画へと改定することになった。総合計画について伺う。</p> <p>1) 1年の前倒しによって短縮された前期計画の目標は達成できるのか。</p> <p>2) 今回の業務は基礎調査も行うようだが、第五次の改訂の域を超えて第六次の様相をも呈しているように思える。どの程度の改訂なのか。</p> <p>3) 町の計画は、町の政策を一番熟知し、それに携わっている職員を中心に作り上げることが最も現実味のあるものになると思われる。業者に委託するメリットはなにか。</p>	町長	今野 信一
11	1. 投票率の向上を	<p>若い世代の投票率向上は全国的な課題とされている。令和7年7月までに執行される予定である参議院選挙、11月に執行される予定である宮城県知事選挙に向けて、本町における投票率向上は非常に重要だと考える。</p> <p>市町村のSNSを利用した情報発信、投票済証を活用した地元店舗での割引や特典と連動させるインセンティブ施策が注目される中、情報発信や若者にリーチするための具体的な計画、インセンティブ施策の計画が必要であると考え、以下を問う。</p> <p>1) 選挙におけるSNS活用状況は。</p> <p>2) 若い世代への参加意識向上施策は。</p> <p>3) 投票済証の活用を。</p>	町長	森 秀樹
	2. 家庭用ごみ処理機の補助金導入を	<p>移住・定住を促進するためには、環境に優しく安心して暮らせる地域づくりも不可欠である。富谷市、大郷町、大衡村では、ごみ削減に貢献する生ごみ処理機の補助制度を導入し、移住希望者への魅力を高めている。</p> <p>本町においても移住者が定住したくなるようなエコ施策や生活支援策を検討することで、地域の活性化を図るべきではないかと考える。住みたくなるまち大和町を目指して以下を問う。</p> <p>1) 家庭用生ごみ処理機購入補助金の考えは。</p> <p>2) ごみ軽減に対する施策は。</p>	町長	

質問順	件名	要旨	答弁者	議員名
11	3. 町長が描く未来の大和町とは	<p>町制施行70周年を迎え、歴史を振り返るとともに新たな未来への一步を踏み出す重要な年である。</p> <p>この節目の年に、防災・減災対策の強化、農業の振興、企業誘致と雇用創出、教育の充実、子育て支援や移住促進、にぎわい創出など、多岐にわたる施策を打ち出されている。</p> <p>町民一人ひとりが安心して暮らし、誇りを持てるまちづくりのための政策背景にはどのような町への思いがあるのか。</p> <p>町長として、どのような決意で取り組まれるのかを問う。</p>	町長	森 秀樹
12	1. 町民バスの有効活用について	<p>本町では宮城交通の路線バス廃止に伴い、1999年10月から町民バスを運行している。超高齢社会において、今後、運転免許の返納が更に増加することが予想され、通院や通学に困る住民が多くなる。特に子育て世代では、交通の不便さから子どもが中高生になると町外に引っ越すこともある。</p> <p>駅がない本町では、住民の交通の便を改善し、生活向上に貢献することが課題だが、町民バスの運行に関しても住民の期待に応えるための改善が必要ではないか。下記の点について町長に問う。</p> <p>1) 町民バスの利用者層や時刻帯ごとの利用状況は。</p> <p>2) 町民バスの利便性向上に向けた取り組みを検討している事案はあるか。</p>	町長	佐野 瑠津
	2. 親育への取り組みについて	<p>近年、家庭環境が複雑化し、心理的虐待や身体的虐待、ネグレクトなどが全国的な問題となっている。核家族化が進む現代社会では、保護者への負担が増しており、本町でも子育てに関する悩みを抱える人が多い。子育てには、地域との繋がりや個々の特性に応じた対応が必要であり、特に幼児教育は重要視される。</p> <p>各家庭が子育てについて学び、方針を持つことが大切だと考えるが、下記の点について町長に伺う。</p> <p>1) 本町における子どもを取り巻く家庭環境の現状や子育てに関する課題は。</p> <p>2) 課題解決に向けてどのような取り組みをしているか。</p> <p>3) 幼児期の子どもの育て方を学ぶ「親育」の導入の考えは。</p>	町長	

質問順	件名	要旨	答弁者	議員名
12	3. 町民が主役のまちづくり	<p>町制施行70周年を迎えるにあたり、町の将来の更なる発展には町民主体の公民協力体制が重要だと考える。</p> <p>そのためには、積極的にまちづくりに関わる人材を発掘するため、住民参加による地域活性化へ向けた仕組み作りが必要であるが、下記の点について町長に問う。</p> <p>1) 本町が現在、取り組んでいるまちづくり支援事業の実績は。</p> <p>2) 町民が主体的かつ積極的に行動できるための制度や仕組み作りが必要ではないか。</p>	町長	佐野 瑠津
13	1. 高齢者の利便性と新たな公共交通は	<p>町の公共交通として、町民バス・デマンドタクシーがある。</p> <p>今後、少子高齢化が進むと思われる中で、町は高齢者の足の確保をどのように考えているのか、以下の点から問う。</p> <p>1) 吉岡地区内におけるバス運行を周遊ルートにする考えは。</p> <p>2) 費用対効果の観点から町民バスを無料化する考えは。</p> <p>3) 「生き生きサロン」などにおいて、参加する高齢者等を送迎する住民互助による移動支援サービスを推奨する考えは。</p>	町長	槻田 雅之
14	1. 大和町の獣害対策について	<p>宮城県の狩猟期間は、一部地域を除いて11月15日から2月15日迄である。猪の狩猟期間が、11月1日から3月31日まで期間が延長されている。しかしながら、猪の活動は夜間に多く、日中はあまり出没しないため、駆除が困難な状況と聞く。以下に町の対応を問う。</p> <p>1) 畑や田んぼ、そして農作物の被害が年々増加していると生産者の声を多く聞くが、把握している各地域の被害状況は。また被害に対する復旧支援の内容は。</p> <p>2) 銃猟の免許は、銃所持の負担や管理、周辺環境等から免許を取得したくても出来ない方もいると聞く。しかし、わな猟免許はそこまでの負担は無いと考えるので、各区長さんや役場職員にも取得を促してはどうか。</p>	町長	宮澤 光安

質問順	件 名	要 旨	答弁者	議 員 名
14	1. 大和町の獣害対策について	3) 猪の肉は調理の仕方にもよるが、とても美味しいとの評判を聞く。令和2年9月の一般質問の答弁では、加工、処理施設の建設検討や川崎町の処理施設を視察したとあり、今後も実施隊員との話し合いが必要との事であったが、その後どのような話し合いがなされたのか。	町 長	宮澤 光安
	2. 大和町の防災減災対策について	<p>阪神・淡路大震災から30年、東日本大震災から間もなく14年となる。その他の地域でも様々な災害が発生している現状であり、いつ何処で災害が起きるのかわからない状況である。昔から、備えあれば憂いなしと言われていることもあり、以下に町の対策について伺う。</p> <p>1) 東日本大震災を知らない世代が増えている現在、当時、大和町でどのような被害があり、何が必要でどんなことが課題となったのかを正しく伝えることで防災減災に繋がると考える。ネクストリーダーと呼ばれる小中学生へどのように伝えているのか。町の取り組みは。</p> <p>2) 大和町では年に1度、防災訓練を行なっているが、毎年どれぐらいの参加者を見込んでいるのか。そして高齢者や障がい者、外国人も含めた災害弱者と呼ばれる方々の参加状況は。</p> <p>3) 大和町では44社の業者が災害対策協力会に加入している。災害時に必要とされる資材や重機等の協力を町ではどの程度見込んでいるのか。業者毎の資材保有リストは受けているのか。</p>	町 長	